

令和6年 労働災害発生状況（令和6年10月末現在）

（休業4日以上の死傷者数）

筑西労働基準監督署

業種別

業種	年	6年		5年		同期比	
		死亡	休業	死亡	休業	死亡	休業
製造業	食料品		22		29		-7
	木材・木製品		1		2		-1
	化学工業		15		10		5
	金属製品		18		19		-1
	一般・電気・輸送用機械		14		6		8
	その他		23		18		5
	小計		93		84		9
建設業	土木工事				6		-6
	建築工事（木造除く）		11		10		1
	木造建築工事				3		-3
	その他の工事		3		4		-1
	小計		14		23		-9
陸上貨物運送事業		31		25		6	
畜産業		5		5			
小売業		25		24		1	
社会福祉施設		16		11		5	
その他		53		60		-7	
	計		237		232		-1
							5

年末年始の災害防止を徹底しよう！

年末年始は慣れたく、生活のリズムも変わりやすい時期です。安全で健康に一年を締めくくり、新たな年をスタートできるように安全衛生活動のポイントを紹介いたします。

非常作業時の災害を防ぐ！

大規模などで一気に設備を停止した上で点検や修理を行う「非常作業」では、「はさまれ・巻き込まれ」などの災害に特に注意が必要です。

事前準備
作業計画書の作成、作業の手順・方法の決定などを協力会社や安全衛生担当部門から関係者が事前に確認し、リスクマネジメントを実施して確保しましょう。

作業開始前ミーティング
作業の進め方、合図の方法、禁止事項などを確認し、リスク情報を共有しましょう。必要な保護具の着用の確認も忘れずに。

- 1 絶縁スイッチ等に接触。（備考）ブループロンプト方式：複数人がキーを持ち、全員がキーが握り終われば機械が動かない方式。
- 2 動力を遮断し（電圧を切り）、機械設備を完全に停止させ、作業を始めて、作業を整理・整頓。セーフティロックなどがあれば、作業指揮者に報告。
- 3 作業が終了したら、無効にした安全装置、取り外した安全カバーなどを元に戻して、作業現場を整理・整頓。

作業中に不測の事態が生じたら、作業を中断して、作業指揮者に報告。

作業が終了したら、無効にした安全装置、取り外した安全カバーなどを元に戻して、作業現場を整理・整頓。

脚立作業のポイント

- 1 天板の上に乗らない。脚立にまたがらない。
- 2 脚立は水平な安した状態に設置する。
- 3 器具に寄り止めの付いた脚立を使用し、前止めを確実にロックする。
- 4 足の上で作業する際は、足を軽く踏き、膝や腰を軽く天板に当てて体重を分散させる。つま先立ちを避ける。
- 5 周囲に「作業中」などの注意喚起の表示をする。
- 6 脚立は使用して2m未満のものを使う。

健康管理をしっかりと

冬は身体が冷える上、年末年始は生活リズムも不規則になりがちで、体調を崩しやすいです。いつも以上に健康状態に気を付けて、免疫機能を高める工夫をしましょう。

からだを温める
睡眠をしっかりとる
過度な飲酒を避ける
ストレスを溜め込まない
体調の悪いときは無理をしない

転倒に注意！

慣れた年末年始は、転倒などにつながる不審な行動をしがちです。また、雪や凍結した路面も注意が必要です。しっかりと対策をして、安全を確保しましょう。

チェックしてみよう！

- 床面や出入口に腐食などの物質がないか
- 床、階段などの水、油、結露、その取扱いが適切か
- 安全に歩けるように、十分な照明の確保されているか
- 白線などは、雪や霜で隠れていないか
- 階段の段止まりは滑りやすいか
- 段差のある場所やすり抜けに注意を促すステッカーを貼っているか
- 作業場所の整理・整頓が適切か
- 作業場所の整理・整頓が適切か
- 作業場所の整理・整頓が適切か

冬季の安全運転

交通事故は冬の発生率が多くなる傾向にあり、特に12月に多発しています。一人ひとりが安全運転を心がけるとともに、毎日のミーティングなどでも繰り返し注意喚起しましょう。

目的別対策
目的別の方針や対策や情報など作業情報を収集。タイヤの摩耗状況、燃料の残量、タイヤチェーンの扱いなどを事前に確認。冬タイヤでも走行性能になることがあるため、タイヤチェーンは必ず装着する。

急いづく道筋を選択する
急ハンドル、急ブレーキ、急発進などは、スピードスリップの原因になる。慎重に急いづく道筋を選択する。

急いづく道筋に注意
急ハンドル、急ブレーキ、急発進などは、スピードスリップの原因になる。慎重に急いづく道筋を選択する。

車間距離を十分に確保する

年末年始 無災害運動

令和6年度 年末年始無災害運動標語

今年もやります！
基本作業の徹底
年末年始も無災害

月別

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
6年	18	27	26	24	26	28	28	34	14	12			237

年齢別

年齢	件数	率(%)
～19歳	4	1.7%
20～29歳	31	13.1%
30～39歳	17	7.2%
40～49歳	44	18.6%
50～59歳	63	26.6%
60歳～	78	32.9%

業種	規模別	事故の型別													合計	
		規模 9人	四九人	一〇九人	五〇九人	一〇〇人	規模 9人	転落・墜落	転倒	激突され	巻込まれ・挟まれ	こすれ・すれ	交通事故	動作の反動		その他
製造業	食料品	1	13	3	5		1		8	1			1	3	3	22
	木材・木製品	1														1
	化学工業	1	1	5	8				4			1		1	3	15
	金属製品	1	15		2	3					2		1	2	5	18
	一般・電気・輸送用機械		4	3	7				2	1		2		4	1	14
	その他	5	9	4	5	1			6	1		6		4	5	23
	小計	9	42	15	27		5		20	5		27	4	17	93	
建設業	土木工事															
	建築工事（木造除く）	7	4				5			1		2		1	1	11
	木造建築工事															
	その他の工事	2	1				2								1	3
	小計	9	5				7		1		2		1	2	14	
陸上貨物運送事業	6	19	2	4		12		1		3		4	2	5	31	
畜産業		1	4										2	1	5	
小売業	3	10	6	6	2			7	3			6	5	2	25	
社会福祉施設	6	6	3	1				5	1			2	6	2	16	
その他	21	19	7	6	3			17	2		8	5	5	8	53	
	計	54	102	37	44		29		51	16		41	19	37	237	

※ 数値は、労働者死傷病報告より集計したものであり、()内は死亡者で内数である。
 ※ 陸上貨物運送事業は「道路貨物運送業」、「陸上貨物取扱業」を合わせたものをいいます。
 ※ 新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く